

2022年11月25日
プレスリリース No.026-22

鉄の伝来によって変化した日本文化を読み解く

公開講座 「鉄」の伝来と「木」の文化－日本の文化を創り伝える

静岡文化芸術大学では、2018年度から、日本の文化と芸術の中で継承されてきた「ものづくり文化」と大地の恵み「素材」について学び、文化の継承と新たな創造へと繋げる“匠公開講座”を開催してきました。本年度は、伝統建築に用いられてきた「鉄」と「木」という素材に着目し、「鉄」の伝来と「木」の文化について、全国的な動向を踏まえながら、静岡県の文化を見つめ直し、日本の文化を創り伝えることについて考えます。

■基調講演－大陸から伝来した鉄器がもたらした日本の文化の変遷

ユーラシア大陸から伝来した鉄器の研究の第一人者・村上恭通教授（愛媛大学アジア古代産業考古学研究センター長）による長年の調査研究をもとにした講演を行います。日本に鉄が伝来したのは弥生時代、さらに製鉄が開始されたのは5世紀から6世紀にかけてといわれています。それ以降、日本では「和釘」が建築に使用されるようになり、「鉄」の伝来とともに「木」が中心だった日本の文化が大きく変化します。

■パネルディスカッション－「鉄」による日本の文化の影響を多面的に紹介

「鉄」の伝来は建築物そのものだけでなく、それらを作る大工道具にも影響を与えました。第二部では建築歴史や文化財保存修復を専門とする麓和善名誉教授（名古屋工業大学）から、現存12城の天守における主要部材の大工道具加工痕に関する調査をもとに、大工道具の普及過程を解説。また鍛冶の白鷹興光氏から復元道具から見える文化について対談形式でお話を伺います。あわせて、日本考古学を専門とする浜松市の鈴木一有氏が静岡県における鉄と木の文化について講演します。

■概要

【日時】2022年12月10日(土) 13:00～16:00 (開場:12:30)

【会場】静岡文化芸術大学 講堂

【主催】静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター

【後援】静岡県、浜松市

【定員】200名 (入場無料・要事前申込)

【申込方法】本学公式Webサイトより申込み。



<本リリースに関する問い合わせ>

静岡文化芸術大学 地域連携室(担当:河西(かわにし))

Tel. 053-457-6105 / Fax. 053-457-6123

Email. chiiki@suac.ac.jp

公式Webサイト



「鉄」の伝来と「木」の文化 —日本の文化を創り伝える

公開
講座

12/10(土) 12:30開場 / 13:00~16:00

会場 | 静岡文化芸術大学 講堂

[定員]
200名
無料
要事前申込

第一部 > 基調講演

「鉄の伝来と日本の文化」 村上恭通 (愛媛大学
アジア古代産業考古学センター長)

第二部 > パネルディスカッション

登壇者: 村上恭通

麓 和善 (名古屋工業大学名誉教授)
「大工道具と木の建築」

鈴木一有 (浜松市 創造都市・文化振興課)
「静岡県の鉄の文化と木の文化」

白鷹興光 (鍛冶)
「復元道具から見える文化」

司会: 新妻淳子 (静岡文化芸術大学准教授)



実演
公開

匠の技を知る
「和釘を打つ!」

[定員]
30名
無料
要事前申込

12/11(日) 9:30受付 / 10:00~12:00

会場 | 静岡文化芸術大学 金属工房、構造実験室
※受付: 南中央エントランス

内容 | 和釘を作る 白鷹興光(鍛冶)
和釘を使う 月原光泰(大工)

各回15名
交替制

お申込み

本学公式Webサイトの
「イベント」情報から申込フォームにて
お申し込みください。

HP:



お問い合わせ

静岡文化芸術大学 地域連携室
TEL.053-457-6105 FAX.053-457-6123
E-mail chiiki@suac.ac.jp

「鉄」の伝来と「木」の文化 —日本の文化を創り伝える

日本の文化の中で継承されてきた「ものづくり文化」と大地の恵み「素材」について学び、文化の継承と新たな創造へ繋げる匠公開講座。2022年度は、「鉄」の伝来と「木」の文化について、全国的な動向を踏まえながら、静岡県の文化を見つめ直し、日本の文化を創り伝えることについて考えます。

公開講座の第一部では、「鉄の伝来と日本の文化」について愛媛大学アジア古代産業考古学センター長の村上恭通教授に基調講演をいただき、第二部は「鉄の伝来と木の文化」をテーマに掲げて、日本の生活文化を豊かにした鉄器、それによって発展した木の文化についてディスカッションを行います。日本の文化について理解を深め、未来へ繋ぐ講座です。

実演公開では、鉄の匠「鍛冶」によって作られた「和釘」を、木の匠「大工」がどのように建築に使ってきたのか？匠の技とその連携を知り、文化財の保存や技術継承、日本の「ものづくり文化」を未来へ繋ぐ意義について考えます。

講師プロフィール

村上恭通 (むらかみ やすゆき)

愛媛大学アジア古代産業考古学センター教授・センター長。専門は考古学。日本・ユーラシア大陸の鉄技術、鉄文化論および弥生・古墳時代の日本と東アジア諸地域との比較文化論(外交交渉論)、東アジアの塩業考古学。NHKスペシャル「アイアンロード～知られざる古代文明の道～」出演。

麓 和善 (ふもと かずよし)

名古屋工業大学名誉教授、公益財団法人文化財建造物保存技術協会理事、公益財団法人竹中大工道具館評議員、工学博士、一級建築士。全国の史跡整備、文化財保存修復の委員を歴任。専門は建築歴史、文化財保存修復。

鈴木一有 (すずき かずなお)

浜松市創造都市・文化振興課生涯学習担当課長。浜松市博物館学芸員を経て、浜松市文化財課にて市内遺跡の発掘調査、文化財の保存活用事業に従事。2022年から現職。専門は日本考古学。鉄器を素材に国家形成期の社会について研究。

白鷹興光 (しらたか おきみつ)

鍛冶。薬師寺再建の際に白鳳時代の和釘を復元・制作し、古代道具復元の第一人者であった故白鷹幸伯氏の次代。父幸伯氏と共に和釘・鋸・建築用金物を制作。静岡県内では県指定文化財大石寺御影堂・医王寺薬師堂の和釘等を制作。

月原光泰 (つきはら みつひろ)

一級技能士(建築大工)、技能グランプリ出場(愛媛県代表)。中国・四国地方を中心に社寺建築(新築)工事、国宝瑞巖寺本堂保存修理工事、史跡富士山村山大日堂保存修理工事、洞雲寺(浜松市西区神ヶ谷町)建築工事、他多数に従事。



お申し込み方法

大学公式Webサイトの「イベント」情報から申込フォームにてお申し込みください。

HP:



交通アクセス

本学には駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

- JR浜松駅より徒歩15分
- 遠州鉄道「遠州病院前」下車徒歩8分
- 遠鉄バス「文化芸術大学」下車

お願い

- ・ご入場の際は必ずマスクをご着用ください。
- ・受付での検温や手指の消毒にご協力ください。
- ・発熱・咳・喉の痛み等の症状のある方はご入場いただけません。

お問い合わせ

静岡文化芸術大学 地域連携室
〒430-8533 浜松市中区中央2-1-1

TEL:053-457-6105 FAX:053-457-6123
E-mail chiiki@suac.ac.jp HP: